

『ツヤアオカメムシ』

桑原 紀子

12月に入り、庭の落ち葉を掃いていたら、緑色のカメムシがいました。紅葉の葉の中に、つやつやと若葉のような体色なので、目立ちます。近くにもう一匹見つかりました。そろそろ越冬が始まるのでしよう。冬の訪れを感じさせてくれる、季語のような虫です。

故郷の岡山県の田舎では、カメムシのことを「ハットウジ」と呼んでいました。緑色や茶色の種類がいて、ブーンと飛んできて洗濯物に止まったり、いつの間にか、部屋の中に入っていたりして、うっかり触ったり、踏みつけたりすると、いつまでも臭い匂いに悩まされる羽目に陥ります。大人にも子どもにも、ハットウジはとても身近な虫でした。

庭のカメムシは、「ツヤアオカメムシ」という名前でした。艶のある青いカメムシ・・・見ての通りの命名です。



ももとは南方系だったのが、温暖化でこちらにまで進出したそうで、ミカンなど果樹の害虫だそうです。カメムシはセミと同じ仲間で、口は針のようになっていて、突き刺して汁を吸います。

田舎の知人の家では、毎年カメムシの集団越冬に悩まされています。住居のログハウスの隙間に、茶色のカメムシが侵入して、越冬するのだそうですが、夕食時、室内が暖まってくると、モゾモゾ動き出すそうです。鍋物の時が要注意らしく、時折、鍋にポトツと落ちるそうで、取り分けたらすぐ蓋をすとの話には、笑ってしまいました。

そろそろカメムシの季節が来ていることでしょう。

庭のツヤアオカメムシは、集団越冬しない種類なのか、一匹ずつで、落ち葉の間に潜り込んでいきました。